

# 会 議 録

◇事務局ー子ども家庭部子ども若者課

電話：03(4566)2471

附属機関又は 会議体の名称	第 31 期青少年問題協議会 第 5 回専門委員会	
事務局（担当課）	子ども家庭部子ども若者課	
開 催 日 時	令和 3 年 10 月 21 日（木）午後 1 時 00 分～午後 3 時 00 分	
開 催 場 所	Zoom によるオンライン会議 (区役所内参加者：本庁舎 6 階 環境清掃部会議室)	
議 題	1 開 会 2 議 事 ・「豊島区子ども・若者総合計画」年間報告書の作成について 3 閉 会	
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 0名
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
出席者	委 員	野村武司、南野奈津子、林大介、五十井八恵子、栗林知絵子、佐野佐知子
	事 務 局	子ども若者課管理・計画係長、子ども若者課職員
会議資料	・ 1 「豊島区子ども・若者総合計画」令和 2 年度実施状況（案） ・ 2 同資料	

# 審 議 経 過

## 【開 会】

・事務局より資料確認

## 【協議事項】

委員長                    それでは、議事の1つ目「豊島区子ども・若者総合計画」令和2年度実施状況調査について」につきまして、事務局よりご説明願います。

事務局                    【資料1、2説明】

委員長                    ありがとうございました。まずA4（同資料、以下「資料」）のほうの実施状況ですが、それぞれの担当課に対して、事業目標をきちんと挙げたうえで、その事業が数値維持型なのか数値上昇型なのかということも加味したうえで実績を評価してほしいと申し上げ、特に事業内容だけでなく事業目標について書いていただいたという経緯があります。その意味で、こちらの評価としても、たとえば目標Iであれば、ひとつひとつの事業が「(1) 子どもの権利に関する理解促進」に寄与し、「(2) 子どもの参加表明・参加の促進」に寄与し、「(3) 子どもの居場所・活動の充実」に寄与し、「(4) 子どもの権利侵害の防止及び相談・救済」に寄与して「子どもの権利を尊重し、自分らしい育ちを支援する」という目標を達成しているかどうかということになるので、その記述のところを、案として書いていただきましたけれども、最終的な文案は、事業ごとの評価だけではなくて、少なくともこの目標Iに対してどれだけ達成したのかということができる限り記述されているのが好ましいと思います。そういう観点で見るのが大事だということを念頭におきましょう。

林委員： 目標1、3(2)、4、6(1)

南野委員：目標2、3か5

五十井委員：目標2(1)

佐野委員：目標6(3)

栗林委員：目標6(1)

皆さん得意なところにテーマを決めていただいて、先程言ったような観点から、事務局の案を再構成してみるとか、こんなふうに見たらどうかを次回までに考えてきていただければと思います。具体的な案になっていけば一番よいと思います。事業評価にとどまらず、事業を達成することによってそれぞれの小項目、ひいては目標にどういうふうに寄与したかということを入り込めれば良いと思います。

A3（「豊島区子ども・若者総合計画」令和2年度実施状況（案）、以下「実施状況」）の評価についてのご指摘、疑問点を挙げてください。事務局から追加の説明はありますか？目標Iのあたりではどうですか。

事務局 目標ごとにとどまらず全体的に、主管課評価のズレが気になりました。我々の質問に対し、評価を変えたところや、令和2年度の取り組みとしての説明を赤文字で出してきたところもあり、そういった差が出てしまっているの、そういうところをとくに見ていただきたいと思います。

委員長 基本的な見方としては、事業内容を把握したうえで、事業の性質が数値維持型なのか数値上昇型なのかということ踏まえ、事業目標と令和2年度の目標値の達成度合いを評価したものが適切であるかどうかということになると思います。目標Iのところでお気づきの点などありますか。

委員長 子ども若者課と指導課とでやっている1ページの事業No.4は、数値維持型で令和2年度の目標値が3校であるのに対して実績値は0ですね。これはコロナで実施できなかったということですね。ただし、教育委員会と連携して検討は行ったということでCという評価になったということですね。取り組み内容に「コロナ禍の影響で実施はできなかったが」と書いたほうが良いですね。

これに対して保育課の行っている事業No.5も数値維持型で、継続実施となっているけれども、上の事業No.4の書き方に対してどの程度の継続なのかははっきりしていませんが、令和2年度についてはコロナ禍だったけれども実施できたということでB評価であるということですね。目標値のところでは上の事業No.4のように具体的に書いてあるといいですね。個々の事業で気づいた点を挙げていただければと思います。

事務局 令和2年度で実施できなかったけれど令和3年度に向けて調整をしたというところはCにしているところが多いです。実施できなかったところはコロナ禍であったことを補記したうえで、実施せず、なぜCなのか説得力を持たせる形の記載に修正をすることが必要かと思いました。

2ページ目の事業No.10だと、コロナのために休止となり、「開催のために検討を重ねたが、事業実施に至らなかった」ということでCですが、単に検討を重ねたということでCと捉えることもできますが、1ページの事業No.4のような具体性を記載したうえでCだったものとの温度差があり、実施しなかったけれどしっかり検討し、目標に資する取り組みをする努力が見えるところはCにする方向性でやってきましたけれど、表現が追い付いていないと感じるところがありました。またこの2ページの事業No.10は、数値維持継続型としながらも目標値が下がっている点でも精査が必要かと思いました。

委員長 コロナの影響でできなかったにとどまらず、何らかの検討をしたということが重要なので、未実施にするのか不十分にするのかは、そこが分かれ目になります。実施できなかったけれども実施に向けて努力をした、検討をしたということであればCでよいと思います。

委員 CかDかの線引きは、大学でもそうですが、子どもとご家族の利益を優先するとか、感染防止の配慮で実施しなかったわけですから、「実施しない=D」という、

する・しないの線引きではなく、そこはCになるのが自然かと思います。

個別案件では、3ページの事業 No.23 の取組み内容で、講習会等を「企画した、運営した」とするなど、やったことが見えるように文章を完成させてほしいです。6ページの事業 No.44 の令和3年度以降の取組の方向性では、個人的な感覚の話ではありますが、電話って、フリーダイヤルがあればするのかなという素朴な疑問があります。かかってこないからもっと電話の周知をしたら増えるのかというのは、自分が困ってたら電話するかな、知らない人にいきなり電話をする勇気が出るのかなというところがありまして、SNSの活用のほうが現実的ではないかと思いました。

また、先程のCやDかに繋がる話でもありますが、20ページの事業 No.148 では取組みが「みらい国際映画祭をオンラインで実施」で、オンラインで何らかの活動を実施しているものには一定の評価をしても良いかと思います。事業はオンラインになると、どうしても小さくコンパクトになり評価が低くなる方向に出るかもしれませんが、ものによっては、もともとの形式でやれたのかどうかではなく、やっているものは評価されても良いと思いました。

委員長                   ただ、この事業では令和2年度の目標値で65回やるところを1回しかできなかったということですね。

委員                      もともとは、居場所の開所日を年間で65回くらいにしたかったということで、イベントを70回やりたかったということではなく。オンライン映画をやっても居場所はできないけれど、人と何かと繋がる場所の提供をオンラインでも努力したいのだなと思いました。

事務局                   違和感のある部分は精査して主管課との調整が必要ですね。

委員長                   38ページからの(3)子ども・若者が文化や芸術に親しむことのできるまちづくりについて見ていきましょう。重点事業は事業 No.250「トキワ荘マンガミュージアムの開設・運営」の一つです。目標値は来場者数ということでしょうか？評価はBではなくA「目標に大きく資することができた」になっています。目標値に対して実績は7割達成ですね。

事務局                   コロナがなかったら100,000人ということなので、そういう補足をしっかり加えたうえで、コロナのことがあって閉館日があったけれども、開館の際には対策を万全にしながらこれだけの人を集めました。かつ、子ども・若者にどれだけアプローチをしたかというところまで入れてくれると、事業としての評価になりますね。

委員長                   当初の目標値100,000人のところ、閉館で令和2年度の目標値を切り下げざるを得なかった。切り下げた目標値から大きく資する取り組みができたのであればAが良い。なので、そういうことがわかるようにしたほうが良いと思います。事業 No.251「トキワ荘通りお休み処の運営」は関連事業で、これも数値上昇型でトキワ荘の開館と連動していますね。令和2年度は目標値が25,000人

に対して実績が 19,934 人。これで B 評価になっている。トキワ荘関連の事業はこの二つで、次が芸術文化劇場。事業 No.252 を見ると、数値維持型で目標値 150,000 人のところ 75,351 人。これは、イベントというか、展示ですか？

事務局                    ホールなので、講演会やコンサート、演劇をする施設です。

委員長                    取り組み内容では、貸出の休止や座席数の制限を設けて来場者数が減少したというこの記述からすると C 評価になってしまいますよね。コロナの影響で感染対策をしなければならなかったことから来場者数について当初の目標値を何パーセント引き下げ、それに対して 75,351 人ということになるので目標に資する取り組みことができたということならよいのですが、この記述からすると C ですよ。という、細かいご指摘をいただけるといいのかなと思います。

委員                        目標値自体を見直したほうが良いのではないのでしょうか。これからは、コロナ禍でなくとも、それを意識した座席数とか、入場者数とかも見直した数値にしたら良いと思います。

委員長                    今後の目標値として、来年度担当課がどのように考えるかになりますので、現状は過去のものとして考えます。

委員                        小学生も中学生も、みんな豊島区に子どもの権利の条例があることを知らないのです。内容も知らない。だから知ってもらいたいと思います。前回意見を出したのは、どのようなパンフレットを配っているのか見せてもらいたいということと、基金についても、たとえば子ども達の「こんなことをしたい」を応援することもあっていいのではないかと考えています。たとえばうちがやっていることとで、グリーン大通りに花を植えることなど資金を全部自己負担でやっています。だから、子ども達が「こういうことをしたいから支援してください」ということを入れてもいいのではないかと思います。今回の資料に関しては、子育て、子育てに関するところなら見られると思います。

委員長                    そうすると、4 ページの児童虐待防止、それとも 9 ページの (2) 「子育て支援サービスの充実」でしょうか。重点事業 No.68 は、来館者数の令和 2 年度の目標値が 36,000 人に対して 23,992 人で B 評価です。53.3%というのは、この達成率だけならば単純に C 評価ですが、コロナの影響ということですね。平成 30 年度の計画策定時の現状値が 41,456 人で、数値上昇型ですが令和 2 年度の目標値が 36,000 人と減っているのはなぜでしょうか？

事務局                    おそらくもともと掲げた目標をそのまま書いているところと、コロナの状況を踏まえて例外的に令和 2 年度の目標値を一時的に下げたものがおそらく混在しています。たとえば 20 ページの事業 No.149 では、令和 2 年度も本来であれば 65 回ですが 52 回になっています。※印で令和 2 年度の特殊事情によって目標値を変えましたと断っているところとそうでないところが混在しています。取組内容から読み取れるところはありますが、どこからも読み取れないところは単純に C 評価に

なってしまうと思います。

委員長 読み取れるところは直してあげて、読み取れないところは記述の提案をしてあげるほうがいいですね。

事務局 青少年問題協議会に提示して区民に公開していくものですので、表記に揺れがあると、資料として好ましくないと思いますので、担当と相談して確認していきます。

委員長 こういったふうに各委員でテーマを決めて、細かく指摘をしていただければと思います。11月4日までにお願いします。ご指摘をいただくとA3資料の評価が変わり、それに伴ってA4資料（実施状況）のほうも変わるようになると思います。事務局にはそれを集約して手直しをしてもらうことになります。

事務局 それでは、専門委員会を12月の初めにさせていただくことになるかと思います。

委員長 宿題が多くなりますが、11月4日までにいまの作業を自分のテーマを設けてやっていただきたい。次回の12月の会議の際には事務局案も出していただきたいと思います。その会議が終わったところで、A4（実施状況）のほうの手直しを入れます。ということで、次回の段階でA3（資料）のほうは確定になります。12月の会議から協議会まではA4（実施状況）の手直しです。協議会が1月末だとして、皆さんに事前に案を送りますよね。1週間前くらいでいいですか？

事務局 はい。専門委員会の皆さんには、その前の2週間前くらいには見ていただけるようにしたいです。

委員長 12月に専門委員会をやって、そのあとは持ち回りで1月14日までに確定するという事ですね。本日ひとつひとつ検討したものはサンプルにすぎませんが、このような形でやっていただくということで大丈夫ですか？

委員 どこをやったか、エクセルなどがあったほうがわかりやすいですね。

事務局 意見表では書きづらいと思いますので、書きやすい物をお送りします。

委員 簡単なものでよろしければ送りますよ。

事務局 ありがとうございます。

委員長 それでは、以上をもちまして、第31期青少年問題協議会第5回専門委員会を終了いたします。ありがとうございました。